

作曲家に訊く vol.3

湯浅譲二

3-1

《湯浅譲二と「時間」の概念について》

—1970年までの諸作を中心に

2016年4月16日(土) 14:00～17:00

3-2

《湯浅譲二の素材論 そして、テク/ロジー》

—「グラフ作曲」以後の湯浅譲二

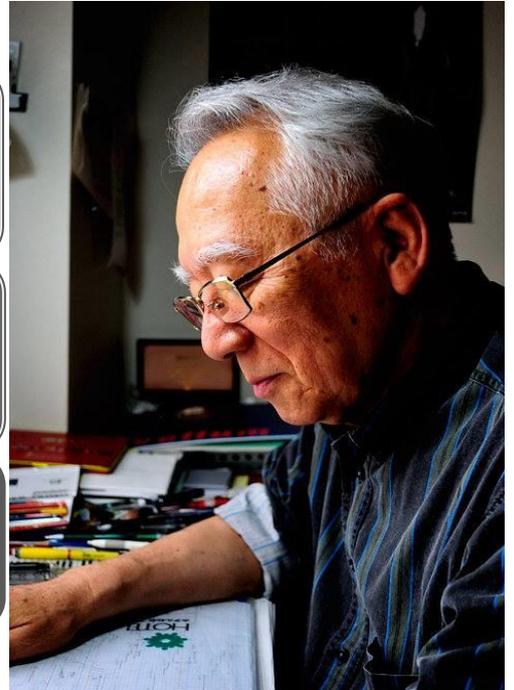
2016年4月23日(土) 14:00～17:00

出演者

湯浅譲二 氏

石塚潤一 氏 (プレゼンター, 聞き手)

(※途中休憩あり。開場時間は両講座ともに13:30。)



(c) Photo by Jun'ichi Ishizuka

【会場】BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅 東口から徒歩1分)

【住所】〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番303号

【受講料】一般:各講座 2,500円/学生:各講座 2,000円

★ 2回通し券:一般 4,000円/学生 3,000円

【ご予約/お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp

湯浅譲二は、方眼紙上のグラフとして作曲を行うという方法論によって知られている。この方法論は、1970年の《弦楽四重奏のためのプロジェクション》で、初めて器楽へと(全面的に)導入され、以後の創作の大部分が、この方法論に沿って行われることとなった。湯浅自身は、デビューから1970年までを、「あらゆること試した試行錯誤の時期」であったとし、そこでは音楽に新しい「時間」の概念を齎すことに腐心したと語る。第一日目には、《内触覚的宇宙I》からホワイトノイズによる《アイコン》まで、あらゆる場で展開していた先鋭的な試行の数々を解きほぐし、それらがいかなる「時間」概念の探求と結びついていたのかを伺っていく。第二日目は、グラフによる作曲以後の作品について。グラフという方法論のさらに奥へと分け入って、素材の選択から響きの構成法(垂直的な音の積み方/選び方)まで、可能な限りの深度にてお話を伺いたい。かつてない機会となると思う。奮ってご参加いただきたい。

(文責:石塚潤一)

～出演者プロフィール～

◆ 湯浅 譲二 / Joji Yuasa

© Photo by Junichi Ishizuka



1929年福島県郡山市生まれ。少年期より音楽活動に興味をおぼえ独学で作曲を始める。49年慶応大学教養学部医学部進学コースに入学。在学中より秋山邦晴、武満徹らと親交を結び、51年「実験工房」に参加、作曲に専念する。以来、オーケストラ、室内楽、合唱、劇場用音楽、インターメディア、電子音楽、コンピュータ音楽など、幅広い作曲活動を行っており、国内はもとより、世界の主要オーケストラ、フェスティバルなどから多数の委嘱を受けている。これまでにニューヨークのジャパン・ソサエティ、DAADのベルリン芸術家計画、シドニーのニュー・サウス・ウェールズ音楽院、トロント大学など世界各国から招聘を受け、また、ハワイにおける

今世紀の芸術祭、香港のアジア作曲家会議、英国文化振興会主催の現代音楽巡回演奏会、アムステルダムの作曲家講習会などに、ゲスト作曲家、講師として参加するなど、国際的に活動している。81年からカリフォルニア大学サン・ディエゴ校教授（現在名誉教授）を務め、日本大学芸術学部、東京音楽大学、桐朋学園大学等で後進の指導にあたる。1997年〈ヴァイオリン協奏曲〉により第28回サントリー音楽賞を受賞。1998年より、「サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ」のアーティストティック・ディレクターを務めている。2010年国際現代音楽協会（ISCM）名誉会員に選ばれる。【受賞】ベルリン芸術祭審査員特別賞（1961）、イタリア賞（1966,67）、サン・マルコ金獅子賞（1967）、尾高賞（1972,88,97,2003）、日本芸術祭賞（1973,83）、飛騨古川音楽賞大賞、京都音楽賞大賞（1995）、サントリー音楽賞（1996）、芸術選奨文部大臣賞（1997）、紫綬褒章（1997）、日本芸術院賞・恩賜賞（1999）、文化功労者（2014）。

作曲家に訊く vol.3 湯浅譲二

◆ 石塚 潤一 / Junichi Ishizuka

評論：「松平頼則が残したもの」で、2002年度柴田南雄音楽評論賞奨励賞。以後、音楽批評家、制作者。読売新聞、音楽現代、洪水、ユリイカ別冊、ミュージック・マガジンなどに、音楽批評、時評、書評などを執筆。演奏会制作者として、2008年と09年「101年目からの松平頼則」を単身企画、制作。11年「松平頼暁 80歳の肖像」、12年「篠原真電子音楽演奏会」、13年「平山美智子 90歳の軌跡」を共同制作。東京都立大学理学研究科修士課程修了（物性物理：理論）。代表的な書き物として、以下の三点を挙げる。

■「標柱 シリンガーとバークリーの理論を巡って」（菊地成孔・大谷能生『憂鬱と官能を教えた学校』河出書房新社、所収） ■「豊饒なる音響の海へと船出せよ」（川崎弘二編著『日本の電子音楽 増補改訂版』愛育社、所収） ■「誤用・分節・カタストロフィー 松平頼暁の管弦楽曲を概観する」（『洪水』第13号 洪水企画、所収）

